

地域における子どもにとって愛着のある場の分析

～拡張された園庭としての公園に着目して①～

○宮田まり子 淀川裕美

(白梅学園大学・Cedep協力研究者 東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター)

1

本研究の背景と目的

- 近年、園庭の無い保育施設が増えている。保育所においては「満2歳以上の幼児を入所させる場合には、屋外遊技場は原則設置」(内閣府2014)と言及。
↓
 - 都市部…園庭代替地として公園、園周辺地域の戸外環境を活用。
→園外の戸外環境での経験は、園庭の「代替」に限らない。「拡張された園庭」と言える(秋田他、2018)。
…園内では経験できない様々な出来事との出会いもまた、期待できるのでは
 - 浦田他(2018)園庭を持たない認証保育所が代替地としての公園やその他地域環境を活用することの有効性を示唆 等。
→ これらは保育者による評価 → 子どもたち自身は、どのように地域を見つめているのか。
 - 子どもの主観を明らかにする試みとして、写真投影法を用いた野田(1988) 藤田(2001) 山口(2002) 宮本他(2017) がある。
→ 野田(1988)は保育時間における活動ではなく、藤田(2001) 山口(2002) 宮本他(2017)は園内を対象としている。
- 【目的】 制度的保育における地域での活動において、子どもにとって愛着のある場はどのような場であるか、子どもへの聞き取りを基に分析する。
→ 保育活動における地域での活動の意義について検討する。



2

方法

- 【研究協力者】 都内私立A保育所5歳児16名。A園はビルの3・4階に位置し、園庭はない。園庭の代替としての公園の他、周囲には幾つかの史跡や公園がある。それらの場所に大型遊具はないが、緑化されていたり自然物が保護されたりしており、高層ビルが立ち並ぶ周辺地域の中で貴重な緑地帯になっている。
- 【期間(実施日)】 2018年6月22日～2018年10月3日(内4回:2018年7月4日, 7月11日, 9月19日, 10月3日)
- 【方法】 次の順序で実施する。①5歳児保育室内にて協力者に調査用カメラの操作を説明し試行してもらう ②調査員はA園の散歩に同行する ③目的地にて協力者にカメラを渡す。その際、協力者へは「好きな場所を3枚撮ってきて」と教示する ④帰園後に写真を印刷し、給食前後の時間に印刷した3枚の写真を基に各自にインタビューをする。インタビューは半構造化面接法を採用。主な質問は「ここはどこですか」「ここはどんな場所ですか」「ここではどんなことをするの?」「ここはどうして好き?(どうしてここを撮ったの?)」その他 等 ⑤得られたインタビュー結果と写真の共通性を整理し、特徴を探索的に分析する。
- 【倫理的配慮】 研究協力園園長及び研究協力者の保護者に説明文を配布し同意書を得ている。なお、5歳児への説明は各自の保護者に依頼し、口頭での同意をもって同意書を作成し提出いただいた。また、調査中は幼児の活動や保育の妨げにならないよう、①撮影したいと思った時に同行の調査者までカメラを取りに来てほしいこと②話したくない時は話さなくてもよいことを伝え、確認しながら実施した。

3

結果と考察

1. 意識された環境 (画像による分析)

5回の調査で得た写真に対し、撮影者の回答とは無関係に、調査者が見て読み取れる内容で分類。結果、「動植物」を写した写真が最も多く、次いで公園内にある遊具やモニュメント等の人工物であった。

表1:子どもたちによって写し出された物と枚数

被写体	撮影枚数
動植物	83
遊具やモニュメント等の人工物	29
地面や池、空等の空間	19
庭園の石など意図的に置かれた自然物	12
路地や通路等	3



2. 意味づけられた環境 (インタビューによる分析)

写真について尋ねた三つの質問の回答について分析。回答に対する分析においては、樋口(2004)が開発したKH Coderを用いて、テキストマイニングによる分析を行い、加えて頻度にごそ特徴はないものの、本研究の目的において傾向の可能性を示す回答の幾つかを取りあげて考察。結果、戸外環境に対する①子どもたちの価値づけ②経験したり意識したりしている動き③期待していることや実現したいと思っていることの3点がみえてきた。

1) . 子どもたちの価値づけ

表2:「ここはどこですか」で回答された単語(名詞)とその頻度

回 答	頻出回数
滑り台	10
バッタ	7
お花/テーブル/階段/公園/銀杏/葉っぱ/お家/アメンボ/カエル/テーブル/階段/公園	4
銀杏/葉っぱ	3
お家/アメンボ/カエル	2

【バッタ】〇〇が捕まえてかっこうよかったから。

【バッタ】ぴょんぴょんとぶとこが好き

【お花】お花の白と黄色が好き

【滑り台】いつもはやっていない。時々やってない。滑っている。くるくる回る。こっちもこっちもいける。

※最も多かったのは「滑り台(10回)」。しかしこの滑り台は、管理上、保育中は使用が禁止されている遊具の一つ。インタビューにより、家庭生活の中で保護者らと共に利用していることがわかる。

表3:子どもたちによる場の命名がみられる回答と写真番号

回 答	写真No
丸いところは座ったりテーブルにするところ	1
おにごっこするところ	2
かくれんぼでかくれる木のところ	3
やすむところ	4
いつも使っているトトロの森のトンネル	5
キョロキョロするところ	6



2) 経験したり意識したりしている動き

表4:「どんなことをするか」で回答された単語(動詞)と頻度

回 答	頻出回数
滑る	7
捕まえる	6
見る/使う/遊ぶ	4
探す/見つける	3
運ぶ/掘る/走る/通る/登る/踏む/歩く	2
ぶら下がる/飲む/隠れる/回る/確かめる/決める/行方/降りる/差す/座る/死ぬ(ごっこ遊びで)/待つ/拾う/上る/乗る/切る/洗う/続く/脱ぐ/摘む/転ぶ/逃げる/入る/破る/飛ぶ/分かれる/捕る/来る/落ちる	1

3) 何を実現したいか

好きな場として写し出した理由から、戸外での活動において期待していること、実行・実現させたいと思っていることを尋ねる質問「ここはどうして好き?」では、**自然物**に関する回答が多く(31回)、また物が「いっぱい」(6回)あるといった量への言及、「ごっこ」「探検」「冒険」など(15回)**ある程度形式化された遊びが実現できること**を理由にして選択されていた。

4

総合的考察と今後の課題

- 子どもの回答に家庭での経験の言及がある→地域の戸外環境意義として保育施設と家庭の双方で経験の連続性が期待できる。
- 愛着を持つ場＝場の特徴を活かした活動が可能、自分なりの価値付けとそれに基づく利用が可能な場である可能性がある。

【課題】 ①愛着がある場として写された写真の画の共通性や特徴、対象となった公園の実際の物理的環境に対する選択比率を明らかにするなど場の特徴をさらに分析していくこと②愛着を持つまでの過程を明らかにしていくこと

5

謝辞

本研究にご協力いただきました、A保育所の子ども達及び保護者の皆様、並びに保育者の皆様に心より感謝申し上げます。

付記

本調査は、東京大学 発達保育実践政策学センター (Cedep) の研究プロジェクトとして、野澤祥子氏(東京大学)と共同で実施している。